

平成13年度 文学部 授業計画表[syllabus]

地4必

|   |                        |     |        |   |   |    |     |
|---|------------------------|-----|--------|---|---|----|-----|
| 科目名   | 地理学演習Ⅱ                 | 2単位 | (ふりがな) | は | せ | がわ | ひとし |
| (英文名)   | Seminar on Geography Ⅱ |     | 担当者    | 長 | 谷 | 川  | 均   |
| 授業のねらいと概要:<br>優秀な卒論を作成し、プレゼンと討論の技術を身につけることがゼミの目的である。<br>発表と討論が中心となるから、重病や忌引以外の欠席は認めない。      |                        |     |        |   |   |    |     |
| 教科書と参考図書:   |                        |     |        |   |   |    |     |
| 評価法: 発表内容、質疑応答の内容、出席点で評価する。毎回少なくとも1回は、各自がまとを得た質問をしなければならない。<br>この講義の評価が、卒論の評点ではないことに注意すること。 |                        |     |        |   |   |    |     |

【授業計画】

| 回数 | 授 業 内 容 と そ れ に 必 要 な 準 備   | 回数 | 授 業 内 容 と そ れ に 必 要 な 準 備 |
|----|---|----|---------------------------|
|    | 各自の進捗状況にあるので、それに応じて内容を組み立てる。<br>2回目のゼミまでに、卒論の内容を細かく書いた計画書と、これまでに読み込んだ論文の一覧を作成しておく。  |    |                           |
|    | 4～5月の予定<br>・受講生からの聞き取り。卒論の内容などに関してより具体的な話に入る。<br>・読むべき論文の紹介と、どの様に論文を読むのかを解説する。<br>・調査の計画、方法などについて解説する。<br>・研究史の作成。<br>・論文の書き方について指導し、完成までのフローチャート作り<br>・2回目に紹介された論文の他に、自分で読み終えた論文を踏まえ、どのような問題意識で、そのような調査をするかを発表する(一人30分、一講義二人)。<br>・長谷川が過去に作成した、あるいは現在取りまとめ中の論文を示し、まとめかたを解説する         |    |                           |
|    | 6～7月の予定<br>・夏の調査で、調査地域のどこで何を調べるのか計画を立て、その調査の成果としてどのような図、表ができるかのラフ・スケッチを示してもらう。(一人30分、1講義につき2発表者をあてる)  |    |                           |
|    | 9月以降の予定<br>・下記の様式に沿って、レジメをつくりながらまとめ発表する。<br>※ 発表要旨の様式<br>1 題名<br>2 研究史(あるいは、研究抄史)<br>3 地域の設定理由<br>4 類似のテーマで行った研究例があるなら、自分の研究テーマあるいは対象地域との比較について<br>5 研究や作業の方法について<br>6 現在までに行った室内作業と野外調査について<br>7 現在までに収集した参考文献表<br>8 既に論文の目次を作成してある場合は、それについても提示する。<br>9 どのような図を作成したか、あるいは作成する予定でいるか |    |                           |
|    | ※注意 以上の項目について、レジメを作成し出席者に配布する。レジメは極力ワープロを使用して作成し、位置図なども必要に応じて載せること。また、発表当日は該当地域の地形図や野外調査で撮影した写真、作成した図などを持参し、他の受講生が研究地域を理解しやすいように努めること。レジメには題名、発表者氏名、発表日などを明記する。   |    |                           |
|    |   |    |                           |